

VG 槻輪だより

会報 第213号
 発行日 令和4年6月1日
 発行・編集 VG 槻輪
 代表者 大岡成一
<http://web1.ibj.co.jp/~kirin>

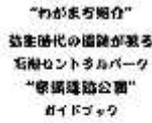
わがまち紹介 活動報告

弥生時代の
遺跡が眠る
高槻市

“安満遺跡公園”
の散策・見学

VG 槻輪の5月「わがまち紹介」活動の安満遺跡公園散策については、4月21日総会の後で、パワーポイントを使い「安満遺跡公園」の紹介をしました。

その上で、新緑が目に鮮やかな5月19日、阪急高槻市駅改札出口に集合し、



全参加者に「ガイドブック」を配布しました。
 高槻医科大学正門前の道を東に向い、八丁畷公園を北に向い、公園の中央部広場で「八丁畷公園」の説明をし、安満遺跡公園のエントラ



公園のメインエントランスにて散策の見どころを説明

八丁松原というのは高槻藩主、永井直清がこの街道に松並木を植えて整備したもので、長さが八丁(約900m)あったのが名前の由来です。阪急電車の高架の近くに石碑があります。



八丁松原の石碑

ンスへ向かいました。八丁松原公園 大阪医科大学の東側に八丁松原公園があります。現在の府道79号(伏見柳谷高槻線)は、江戸時代には西国街道から高槻城へ向かう街道でした。

安満遺跡は、約2,500年前の弥生時代の環濠集落跡で、広さ約720,000㎡(甲子園が38,500㎡)で、公園の中央部を西から東に散策し如何に広いかわかりました。居住域・生産域・墓域の三つの要素が全国で唯一まとまって発見され、吉野ヶ里遺跡(佐賀県神埼郡)と並び、弥生時代の暮らしぶりをたどることが出来ます。



弥生時代の稲作田の大きさと足跡の遺跡を見学

安満遺跡は、約2,500年前に開かれた環濠(かんこう)がめぐる居住地や水田、集団墓地などが見つかっており、土器や石器、農具、装身具など豊富な生活用具が出土しています。

遺跡の保存と活用、地域防災力の充実に図るため、緑豊かな都市公園として整備が進められ、令和3年3月27日に全面開園されました。

稲作技術をたずさえた開拓者たちが安満山を望む葦辺に水田を拓き、先住の縄文人たちと共生するなかで、新たな弥生文化が華ひらきました。人々は淀川を通じて広範な地域と活発に交流し、ほぼ800年間にわたって栄えたことがわかってきました。日本の弥生文化を知る上できわめて重要な遺跡であり、中心部の約13ヘクタールが国史跡に指定されています。



展示館のシアターを見る

約2,500年前に開かれた環濠(かんこう)がめぐる居住地や水田、集団墓地などが見つかっており、土器や石器、農具、装身具など豊富な生活用具が出土しています。

雨水貯留施設工事は、「高槻市総合雨水対策アクションプラン」に基づき、実施されました。まず、安満遺跡公園に、貯留量約20,000㎤の雨水貯留施設の建設が平成29年6月30日に完成しました。



雨水貯留施設の全体構成図

雨水貯留施設は、近年頻発している局地的集中豪雨に対し、雨水管や水路からあふれそうになる水を引き込み、一時的に貯留することで、浸水被害を軽減させるための施設です。

安満遺跡公園をより理解したい方は、和泉市にある「大阪府立弥生文化博物館」を見学することをお勧めします。

2022年6月 わがまち紹介
自然が主役の感動的空間
ヨドコウ迎賓館見学

月 日：2022年6月15日(水)
 集合場所：阪急芦屋川駅 改札口 集合
 訪問先：ヨドコウ迎賓館
 その他：詳細は別途配布資料を参照下さい。

2022年7月 わがまち紹介
弥生時代の生活や対外交流の様子を学ぶ
大阪府立弥生文化博物館見学

月 日：2022年7月14日(木)
 集合場所：信太山駅 (JR 阪和線) 改札口 集合
 訪問先：大阪府立弥生文化博物館・史蹟池上曾根遺跡
 その他：詳細は別途配布資料を参照下さい。